

発刊の辞

社団法人日本溶接協会
会長 藤田 譲

日本溶接協会は、1949(昭和24)年11月に、社団法人として通商産業大臣から認可を受けてから本年11月で満50年目を迎えることになりました。

戦後、我が国の復興発展と技術水準の進歩向上を目指し、高度経済成長を続けた1975(昭和50)年までと、オイルショックを境にした省エネ対応の産業構造変化の10年間を経て、バブル景気の後処理が続く現在までの50年間半世紀にわたり、溶接に関する研究・調査、標準化、教育・普及、認定・検定等に関する各事業を、会員の皆様とともに、さらには理事会をはじめとする部会・委員会・支部等の組織を通して活発な活動を重ねて参りました。

このことにより、当協会設立の趣旨に述べられておりますように、我が国産業の健全な発展にささやかなりとも寄与することができましたことは当事者として喜びであるとともに広く産業分野からも高い評価を頂いているところでございます。その間ご支援・ご指導くださいました会員皆様及び関係各位に深く感謝申し上げる次第であります。

当協会は本年創立50周年を迎えるに当たり、バブル以降の日本経済並びに会員企業の経営状況が必ずしも芳しくない環境の中において記念事業を行うことに関し、理事会をはじめとして関係者に検討をお願いしましたところ、半世紀という長い期間の区切りでもあり、記念式典、記念表彰、記念講演を含むささやかな記念行事を開催する運びとなりました。また、その記念事業の一環として、ものづくりの基盤技術である溶接技術の進歩向上過程を後世へ伝える義務と技術伝承、さらに21世紀に向けた協会のあり方と具体的な方針を示す必要性から「日本溶接協会50年史」を発刊することになりました。

当協会は、21世紀を迎えるに当たり、社団法人としての運営体制の総合的な見直し、認証・認定における規制緩和と諸規則改正(性能規定化)への対応、IIWをはじめとする先進国との交流をさらに進めるとともにアジアのリーダとしての国際活動、溶接分野の規格整備とISO及び国際規格への対応としての標準化活動、専門部会・研究委員会のあり方、支部のあり方等について会員企業の意見を多数取り入れ、会員あつての協会、業界のための協会としての基本姿勢に立って、当協会の健全な運営体制を構築するため鋭意検討をしております。このことは21世紀体制検討委員会の中間報告として50年史にも掲載しており、次世代への資料としても役立つものと期待しております。

最後に、この50年史は会員、官公庁及び関係者など多くの方々のご努力・ご支援によって作られました。皆様に心から御礼を申し上げますとともに、今後なお一層のご協力を賜りますようお願い申し上げまして発刊の辞とさせていただきます。

